

第 1 回策定委員会の主な意見の整理

1 今後の教育について

これまでの成果を踏まえてもう一段高みに上げる、より豊かな教育を生み出していくための 10 年間にしていく(成熟型の改革としてのステップアップ)。

地域を掘り起こし、掘り起こす地域が学校をよくしていくという、循環の関係性をどこでつくっていくかというのが、これからの大きな課題である。

「コミュニティ形成」と「市民協働」というキーワードによって次のステップの教育施策を考える必要がある。

競争から協働、みんなが加わることによって生まれる新たなエネルギーを、改革のエネルギー、発展のエネルギーとしていくことが大事である。

教え育む「教育」から共に育む「共育」という考えがいいのではないか。

学校教育に限らず、就学前も学校教育も学校を卒業した後の地域における社会教育、生涯教育のレベルにおいても、みんなが育っていくことができる教育環境をつくっていくべきである。

2 教育の現状等について

学校に入る前の就学前の時期というのが世界的に今脚光を浴びているので、今後、重点的に取り組む価値があるのではないか。

特別支援と言われているものが特別でない支援になる。そういう社会、コミュニティがぜひ杉並で実現してほしい。

最近 5 年で 4 割弱の教師が新しくなっているので、教師をきちんと育てていくことは喫緊の課題である。

現場の先生のニーズと保護者のニーズ、そして子ども自身が一体どういうことで困っているのかを、しっかりと明確にしていかなければいけない。

3 教育ビジョンの策定過程について

先生や保護者などの現場の声をとり入れながら、策定していくべきである。

わかりやすく、共感が得られるビジョンにするべきである。